

ヨルダン

北ゴール灌漑近代化事業



本事業にて建設されたポンプ場

〔 借款概要 〕

承諾額/実行額	4,080百万円 / 4,080百万円
借款契約調印	1989年1月
借款契約条件	金利2.9%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1997年4月

〔 事業概要 〕

ヨルダン川東岸にあるヤムルーク川とラジブ川には含まれた北ゴール地域において、既灌漑地の配水・末端灌漑方式の改良を行うとともに、未灌漑地に新たな灌漑を行うことにより、灌漑用水の節水による水資源の有効活用と農産物の生産増加を図るもの。

〔 評価結果 〕

本事業を通じ、既灌漑地7,200haの水路を開水路からパイプラインに転換するとともに、未耕地900haのパイプライン配水施設（取水ポンプ場10カ所、パイプライン266km及び農道205kmの新設・修復等）が整備され、1998年の事業完成後、水利用効率は約90%と目標値（約63%）を越えて大きく改善した。

灌漑面積については、供水量の制約もあり事業対象地8,100haに対して約6,000ha前後の実績となっているが、各農家において点滴灌漑など節水型農法が導入されるとともに、作付けの種類、肥料面の工夫等の営農努力がなされたことにより、ほぼ計画に沿った生産量が達成されている。

農家のインタビュー調査でも、殆どの農家が灌漑用水の確保や農業技術の向上等による収量の増加、労働時間の削減等を便益として挙げており、本事業の効果が大きかったことが窺える。

施設の維持管理についても特段の問題なく行われている。